



生シラスの鮮度を保つ

シラス高付加価値化



育波浦漁協(淡路島)

〔淡路〕淡路島の北西に位置する育波浦漁協(兵庫県淡路市)。目の前に好漁場の播磨灘が広がり、組合員は主にシラス(チリメン)やイカナゴ漁を営む。漁港近くには加工業者が集積する。同漁協は衛生管理強化の一環として、3月末にリビングテクノロジー(東京)の「海水電解殺菌装置」を導入。大量の海水を瞬時に殺菌処理して、「海水電解水」という無菌で殺菌力のある海水を製造する装置でこの海水電解水を荷さばき場に配管し、魚を入れるかごや床面の殺菌洗浄などに利用する。海水電解水は海水の成分はそのまま変わらない。これからは魚が本格化するシラスの鮮度保持効果も期待している。(西浜伸明同漁協事務局長。漁獲が年々減少傾向のシラス。限りある資源を無駄にしないため、高度な衛生管理によって付加価値を高める狙いだ。)

「海水電解水」で鮮度保つ

リビングテクノロジーの装置導入



荷さばき場に設置した電解槽

などに利用してきた。同漁港内の海水は潮流など荷さばき場の床などにこの関係で循環していくとほれてしまう場合があるという。海水が滞りがちで必ずしも衛生的とは言えず、同装置導入に踏み切った。「内海の海水は特に夏場は雑菌が多い。その関係で雑菌が繁殖する。同装置は海水中の塩分を瞬時に電気分解する仕組み。その際、海水中の細菌は瞬時に死滅する。電気分解によって生じた無菌で殺菌力のある海水電解水は床面などの殺菌洗浄に威力を発揮し、ぬめりや腐敗臭を効果的に取り除く。気温上昇に伴い、排水溝などの腐敗臭対策は待ったなしだ。「イカナゴ漁船はイカナゴの脂のりが良くなり、その脂分で荷さばき場の床などにぬめりが発生する。この改善効果も期待している」(西浜事務局長)

荷さばき場の殺菌洗浄もぬめり・臭気除去に威力

同漁協の正組合員は5月末現在162人。船引網漁業とノリ養殖を営む。船引網漁業の専業船は38統(1カ統3隻)、ノリ養殖との兼業船が5カ統と船引網主体の漁協だ。船引網で漁獲するシラスとイカナゴの漁獲量が経営を大きく左右する。今年春のイカナゴ漁の漁期が短く、漁獲量は振るわなかったという。例年6、7月に本格化するシラス漁に期待が集まる。同漁協の昨年、1昨年のシラス水揚量はいずれも1400ト前後。多い年は2500トを超えたが、「年々出漁日数は減っている。特に10、11月は漁獲が少なくなった」(西浜事務局長)。

同漁協所属の船引網漁船はシラスを漁獲後、船倉に投入する。帰港後に船倉からかごに移し替え、ういう現場に海水電解水は非常に有効だと思われ、(リビングテクノロジー)の福永康(主幹技師)が低下したり、配管が詰まったりする。同装置導入で海洋生物の付着を防ぐ効果もあり、海水電解水の用途は多い。同装置はコンパクトな設計で、運転管理が容易。スイッチ一つで無菌海水が利用できる。また、1ト当たり1・4円というランニングコストも魅力だ。

海水電解水とは

- 「海水電解装置」によって生成される
- 大量の海水を瞬時に殺菌処理する
- 無菌の清浄海水で、海水の成分はそのまま
- 有機物を分解するため海水の透明度がアップ
- 1時間当たり約1円の低ランニングコスト
- 紫外線やオゾンより安く、殺菌もれがない
- 工場内の衛生管理水としても利用可能

リビングテクノロジー(株)

東京都千代田区神田駿河台三丁目4番地
日専連朝日生命ビル3階
電話:03-3252-1880